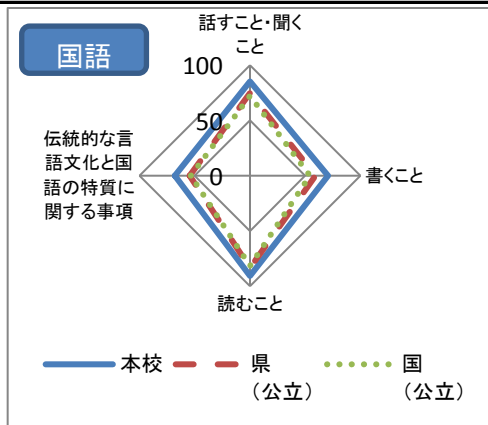


本年度正答率(本校77%, 県66%, 国63.8%)

本年度の結果について



○全体的な傾向について

国語科の平均正答率は77%で、県平均を11ポイント上回った。また、どの領域も県平均を上回り、一定の成果を得ている。記述式の問題においても正答率が県平均よりも16.8ポイント上回っていた。

○昨年度の課題への取組の成果

一昨年度、昨年度と、国語Bの書く領域で、問題文の中から必要な情報を取り出し、まとめて書くことが課題であった。そこで、主述を一致させることや条件にあった文章を書かせることを全校での目標として帯タイム等で取り組んだ。また、給食前学習では、一人一人の課題に合った指導を行った。その結果、「目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書く」問題に対し、通過率は48%で県平均を13.7ポイント上回ることができた。しかし、通過率自体としては低く、継続して指導していく必要がある。

重点課題

【課題1】

学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う。「関心」を「感心」と誤って答えている児童が66.8%。(正答率16.0%)

【課題2】

目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書く。分かったことを2つ書く条件のうち、1つのみを書いている児童が40.0%。(正答率48.0%)

重点課題に対応した改善指導内容及び方法(授業)

教科書教材や新聞記事の音読をさせたり、記事に使われている語句の意味調べをさせたりするとともに、日常に書く日記や作文等で漢字を使って書くことを徹底させる。

他教科と関連させて、「書くこと」の単元で学習したことを使って文章を書かせる。また、各学年で定期的にテーマを決めて作文を書かせる。その後、学年間で交換して添削し、指導の課題や手立てを共有する。児童には、視点を明確にした振り返りの機会をもたせる。

全校での目標(キャッチフレーズ)

言葉の世界を広げよう。

文章を書くことを重視した授業づくりをしよう。

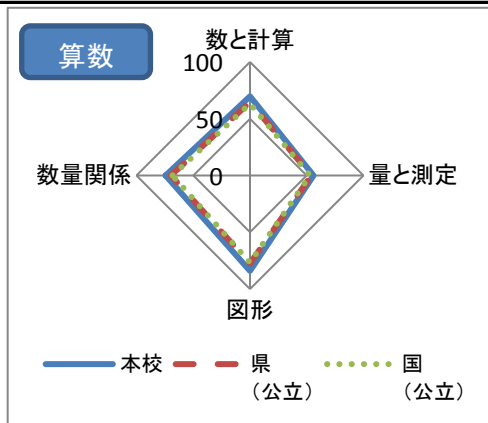
令和2年度 全国学力・学習状況調査 数値目標

「目的や意図に応じて、自分の考えを明確にし、まとめて書く」問題 正答率 50%以上

【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月・4月
学年・方法				全学年 学期末テスト(言語の問題)	全学年 CRT標準学力調査 基礎基本問題	全学年 学期末テスト(言語の問題)	R1全国学力調査(言語の問題) 5年
目標値				全国平均を上回った 人数の割合70%	全国平均を上回った 人数の割合70%	全国平均を上回った 人数の割合70%	70%
実施後数値							
【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月・4月
学年・方法					全学年 CRT標準学力調査 「書く」(作文)問題		R1全国学力調査(書く問題) 5年
目標値					全国平均を 5ポイント以上上回る		70%
実施後数値							

本年度正答率(本校73%, 県68%, 国66.6%)

本年度の結果について



○全体的な傾向について

算数科の平均正答率は73%で、県平均を5ポイント上回った。どの領域も県平均を1.9~6.5ポイント上回り、一定の成果を得ている。

○昨年度の課題への取組の成果

数量関係において、割合を含めた単位量当たりの大きさを求めることに課題があったので、図に表して考えさせることを全校で取り組んだ。また、グラフの特徴を基に、複数の観点で考察したり表現したりすることに課題があったので、算数科だけでなく社会科や理科においても、複数のグラフを比べたり、根拠を明確にして事象を説明させる活動を多く取り入れるようにした。その結果、数量関係の正答率が74.2%で、県平均を4.7ポイント上回ることができた。

重点課題

【課題1】
図形の面積の求め方を式と図形を関連付けて説明する。正答の条件3つのうち1または2つの条件しか書いていない児童が56%。(正答率32.0%)

【課題2】
除法に関して成り立つ性質を用いて、計算の仕方を表現する。(正答率48.0%)

重点課題に対応した改善指導内容及び方法(授業)

数学的な表現を用いて、式の意味を順序立てて説明する機会をより多くもつ。

具体的な場面と関連付けながら式の意味を考えたり、その式を用いて問題を解決したりする場面を設ける。また、根拠となる事項を過不足なく示して説明しているかを個別に振り返らせる。

全校での目標(キャッチフレーズ)

立式の説明を書かせよう。

過不足なく説明できているか振り返らせよう。

令和元年度 全国学力・学習状況調査 数値目標
記述式の問題 正答率 県平均+6ポイント

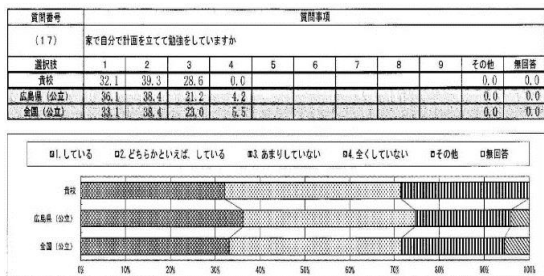
【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月・4月
学年・方法					全学年 CRT標準学力調査 基礎基本問題		R1全国学力調査(記述式の問題) 5年
目標値					全国平均を上回った 人数の割合70%		50%
実施後数値							
【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月・4月
学年・方法				4年 学期末テスト(除法)	全学年 CRT標準学力調査 基礎基本問題		R1全国学力調査(記述式の問題) 5年
目標値				全国平均を上回った 人数の割合70%	全校平均を上回った 人数の割合70%		50%
実施後数値							

平成31年度(令和元年度) 指導方法等の改善計画について【質問紙】

海田西 小学校

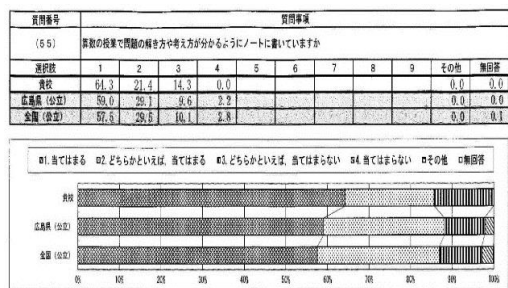
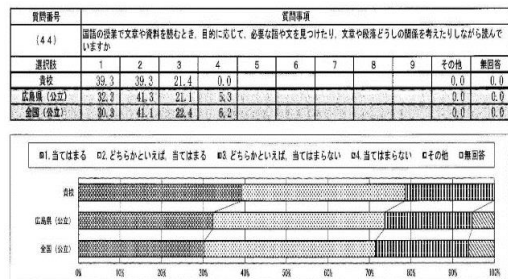
(全国学力・学習状況調査 質問紙)

(1)生活・学習



児童生徒の回答についての課題(現状値)	今後の具体的な取組の内容	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状値からの伸び
質問(17)「家で自分で計画を立てて勉強していますか」の肯定的評価は71.4%で県平均より3.1ポイント低かった。家での学習の取り組み方や自主学習の仕方についての指導に課題があると考えられる。	家での学習として、宿題や自主的な学習をどのように取り組めばよいのかを指導し、児童に計画を立てさせる。実施後は、それに対する評価を行う。	5・6年	55%	CRT標準学力調査 i-Check項目74	1月		

(2)教科



児童生徒の回答についての課題(現状値)	今後の具体的な取組の内容	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状値からの伸び
国語 質問(44)「国語の授業で文章や資料を読むとき、目的に応じて、必要な語や文を見つけたり、文章や段落どうしの関係を考えたりしながら読んでいますか」では、肯定的評価は国語科に関する項目の中で一番低く、78.6%であった。	説明文の読解の指導の際、キーワードや文章の構成を捉えさせる指導をする。そのことにより、内容を理解できるように気付かせる。	5・6年	80%	児童アンケート調査	3月		
算数 質問(55)「算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか」では、肯定的評価は85.7%で、県平均より2.4ポイント低かった。自分の考えを書く機会をさらに多くもつ必要がある。	算数科のキャッチフレーズの1つを「立式の説明を書かせよう」としている。授業の中で1時間に1回は、自分の考えを書かせることに取り組む。	5・6年	88%	児童アンケート調査	3月		